

## 東城しのぶ 登録有形文化財視察報告書

視察日 2019年7月24日 10:00～

場所 旧日下(くさか)医院本館にて 山口県周南市土井2丁目4-9

### ●報告事項

#### 視察目的

下関市には35件の、登録有形文化財が指定してありますが、長府博物館だけは現在具体的な利用が見えない状況の為、この長府博物館の価値と、観光振興、地域振興へ活用を参考にしたい。

#### 旧日下医院本館の状況

登録有形文化財

登録日：平成20年10月23日

所在地：周南市土井2丁目4-9

登録が周南市であり、所有管理は民間。

昭和3年、旧日下医院本館で、現在は、古き良き佇まいを残しながら珈琲店、花屋、雑貨屋、家具屋が軒を連ねるコミュニティの場の複合施設。

旧日下医院本館は、西面して建つ瓦葺(かわらぶき)木造2階建ての建物で、昭和3(1928)年に建てられました。建築主の日下宗一氏は、明治27(1894)年に現在の周南市で生まれ、長崎医学専門学校(現・長崎大学医学部)で医学を学び、後に現在地で医院を開業しました。長崎において、洋風建築に影響を受け、自らの医院改築に当たって、洋風の意匠としたものと伝えられています。

正門の門柱は、高さ2.5メートルの石造角柱で、頂部が球状に加工されています。

塀は、高さ1.7メートル、延長117メートル。モルタル仕上げとし、基礎や笠木(かさぎ)に御影石を使っています。「旧日下医院本館」と「旧日下医院別館」、「旧日下医院正門及び塀」は、平成20(2008)年、国の登録有形文化財に登録されました。

戦災を免れ戦前の佇まいを残す貴重な建造物として国の登録有形文化財にも指定されています。

中は現在、複合ショップ(花店・喫茶店・雑貨店・飲食・アパレル(5店舗))として使用されています。当時の処置室に当たる雑貨店では、当時使われていた薬剤棚に商品が陳列されています。また、別館は、分娩室(ぶんべんしつ)として使われていたそうです。

5つのスタイリッシュで感度の高いお店が入っている複合施設として地元の方はもとより、県外の観光客からも愛される、人気の場所となっています。

昭和40年代に閉院し、一時は2階を近所の大学の宿舎として私用していたこともあったそうですが、しばらくは、何にも使われていなかったそうなのです。

そんな中、歴史あるこの場所を、ほったらかしておくのはもったいないと、店舗デザインの事業を手掛けられている『SOFA』の白井宏明さん(5つのお店の中のひとつであるセレクトショップ『SOFA&PRODUCTS』も運営)が中心となってリニューアルの取り組みがなされ、現在の形に生まれ変わり、地元のコミュニティスペースとして息吹を取り戻しました。

「ここが病院だった頃に、ここで生まれたというおばあちゃんが、孫世代の若者と“昔、ここは診察室だったのよね〜”なんて話しながらコーヒーを飲んでいたり、  
独身時代から通っていた30代の女性たちが、最近、ママになって子連れで遊びに来るようになったり、建物の中身は変われど、地域の人集いの場として愛されてきた場所なんです。」  
と白井さんが話されてました。

#### 考察

民間運営だからこそ、ノウハウで地域を問わず観光に於いても経営感覚で歴史ある建物を上手く活かし、魅力ある活用をされてる。今後の課題として、老朽化、耐震性への大幅な費用が課題となっている。

しかしながら、こういう場所を大切に、次ぎの世代に継承していくことも、地域を元気にすることにつながるのかもしれないと考える。